

二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)の排出分を植林や環境団体への寄付などで相殺する「カーボンオフセット」事業の大手、英カーボンニュートラルが日本市場に参入する。廃棄物リサイクルの電子商取引を手がけるリサイクルワン(東京・渋谷)と提携、日本企業向けにカーボンオフセットを商品化する。

CO<sub>2</sub>排出、寄付で「相殺」

## カーボンオフセット

# 英大手が日本進出

る。個人にも地球温暖化への関心が高まる中、需要は大きいと判断した。

リサイクルワンが英カーボン社の日本での代理店を務め、今月内に本格的に営業を始める。両社の環境ビジネスのノウハウを生かし、カーボンオフセットを自社の商品やサービスに取り入れた企業にノウハウを提供、商品を共同開発する。二〇〇八年にカーボン

オフセット事業で約一億五千万円の売上高を見込む。英カーボン社は一九九七年に同事業を始めた草分け約三十億円。

▼カーボンオフセット  
企業活動や日常生活での二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出を排出権購入や植林などの活動を通じて埋め合わせ(オフセット)すること。排出権を「小口販売」する形になり、買い手を中小企業や個人にまで広げられる。

欧米では企業の社会的責任(CSR)や販促に活用する取り組みが活発。旅行中に排出するCO<sub>2</sub>を自然エネルギー購入で相殺する「CO<sub>2</sub>ゼロ旅行」をJTBが商品化するなど、日本でも導入事例が出始めている。